

渡邊綱雄

1896(明治29)～1983(昭和58)

明治29(1896)年、旧糸口村の篤農家・渡邊綱五郎の次男として生まれる。こよなく農業を愛した父・綱五郎は、「農業は宝だ。県知事になるより百姓になれ」と言って、氏を教育したという。兄が他郷で就職したため、父は氏に家業の農業を継がせようと大いに期待していたが、綱雄氏は当時法曹界で華々しく活躍していた叔父・十寸穂(控訴院判事、後に弁護士)の感化を受け、明治大学法学部英法学科に進学。大正9(1920)年に卒業して株式会社台湾銀行に入社。翌年東京丸の内弁護士を開業。

昭和20年8月、父の霊前で期待に添えなかったことを深く詫言、父の遺志を継いで、終生興農と積善に心を尽くすことを誓う。昭和26(1951)年、父の遺訓「工夫して働く人に不幸なし。家も栄えん、村もまた」の精神を心とした興農会を旧糸口村に設立、婦人会への寄付や、2万坪の山林を村に寄付し、農産物品評会、孝子・烈婦の顕彰等にも力を尽くした。

昭和27(1952)年、糸口綱五郎公園用地や多額の浄財を寄付、翌年綱五郎公園が完成。この浄財で「宇佐市興農会」が設立された。昭和53(1978)年には、興農綱五郎会館建設費用を寄付。翌年財団法人「渡邊興農積善会」を設立、私財1億円余を拠出して、農業の振興と明るい農村づくりに寄与した。母堂存命中は、お盆と暮れの二度帰郷し、婦人会や区長会の方々にぎやかに過ごすのが好きであった。日常生活は質素そのもので、常用の古びたカバンを大切にしていた。

昭和55(1980)年9月、宇佐市議会で最初の「宇佐市名誉市民」として顕彰される。同年に建立された頌徳碑には、「厳父綱五郎翁の遺志とはいえ、先生は誰よりも故郷を愛し、興農一途に情熱を傾けたことは万民の認めるところである」と記されている。昭和57(1982)年、宇佐市に18点の絵画を寄贈。

氏の処世訓は「人の世話にならぬよう、人の世話をするように、そして報いを求めぬように」であった。『わが人生論“青少年に贈ることば”』の中で、「勉強することも、金儲けすることも、自分本位であれば無意味である。前提は人の為、世の為であらねばなりません。隣人の喜びをおのれの喜びとする人、人の悲しみを悲しむ人になるように、そして人を怨まず憎まず、誹謗せず、怒らない人になってください」と記す。昭和58(1983)年10月3日に永眠。享年87歳。11月19日、宇佐市農業者トレーニングセンターで宇佐市民葬が執り行われた。

平成5(1993)年には故人の遺志として3億円が市に寄付され、図書館に渡網記念ギャラリーが併設された。

渡邊傳之丞と渡邊綱雄展

ごあいさつ

宇佐市民図書館では、開館10年記念企画として「渡邊傳之丞と渡邊綱雄」展を開催することになりました。

渡邊傳之丞は、帆足万里の門下生で、長州藩の藩校・明倫館に招かれ、のちに下高村に戻り、多くの子どもたちを教育しながら大開墾事業を推進した経世家として知られています。郷土史家・小野龍膽氏は昭和10年、氏の人柄や功績をたたえて『渡邊傳之丞傳』を著しています。

傳之丞の曾孫で、最初の宇佐市名誉市民となられた弁護士・渡邊綱雄氏は、郷土をこよなく愛され、宇佐市の発展に大きく貢献されました。昭和58年に故人とされましたが、ご遺志を継がれたご遺族の方から3億円の寄付をいただき、当館に渡網記念ギャラリーを併設することができました。

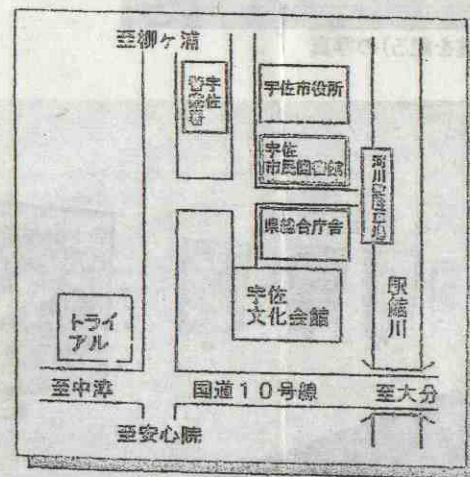
今回は、渡邊傳之丞に関する資料および渡邊綱雄氏の往時の写真や宇佐市に寄贈された絵画の一部などを展示しています。

なお、この展示に快く資料を提供してくださいました渡邊輝綱氏と善光寺住職・菅野俊光氏に心から感謝申し上げます。

どうぞ、ごゆっくりご鑑賞ください。

2008(平成20)年5月20日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー



平成20(2008)年5月20日/編集・発行 宇佐市民図書館

大分県宇佐市上田 1017-1 TEL.0978-33-4600

開館10年記念

渡邊傳之丞と 渡邊綱雄展



善光寺にある寶頭盧(びんずる)像

渡邊傳之丞が善光寺に寄贈。損傷が顕著なため、昭和28年に綱雄氏が京都に送り、修理を行った。釈迦の弟子・寶頭盧尊者(びんずるそんじゃ)は、釈迦から永久に衆生を救い続けることを命じられていた。人々は体の具合の悪いところがあると、寶頭盧像の同じ部分をなでることで治癒を祈願していた。善光寺の寶頭盧像は、誰の目にもとまり、誰でも自由に祈願ができる場所である、本堂の北側片隅に安置された。

2008.5.20～7.13

10:00～18:00(日曜のみ～17:00)

休館日＝毎週月曜日・祝祭日・月末木曜日

宇佐市民図書館・渡網記念ギャラリー



渡邊網雄



渡邊傳之丞

渡邊傳之丞

1819(文政2)～1871(明治4)

渡邊傳之丞は渡邊家中興の祖(明4没・53歳)。幼名は傳吾、実名は義綱。帆足万里に学び、長州藩の藩校・明倫館に招かれたが、のち帰郷して、百人に近い門弟の教育に尽くした。謝礼を断る一方で蔵書をおしげもなく貸し与え、七夕祭には卒業者や退学者まで集めて酒食を供し、師弟の情を温めたという。

傳之丞はまた、父祖の業を継承した篤農家で、毎年領主奥平侯に献米したほか、春秋の二回、食料不足に困窮する人々に倉を開放した。晩年は、私産を投じて高村と時枝との間にある中六反という土地の大開墾事業を成し遂げた。資金の調達のため先祖伝来の美田まで手放し「自分の宝は減るが、お国の宝は増える」と言って私欲がなかった。え墾田が完成するころ病にたおれ、死の直前「もし自分が死んだら、神となって田を守る。なきがらは墾田のかたわらに埋めてくれ」と遺言した。その霊を祀るのが田守社(下時枝に現存)である。以来、渡邊家の氏神となった。

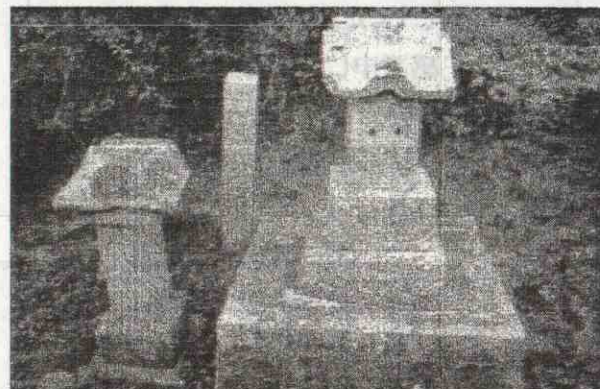
遺著に『時枝騒動記』(全20巻)がある。ただし巻1、5、6、8、10、15、17、20のみ内容が現在に伝わる(『渡邊傳之丞傳』に収録)。ほかに『高村風土記』、「高村遺詠」があったが現存せず。



渡邊家系図



傳之丞の愛読書



田守社(傳之丞の霊を祀る)の写真

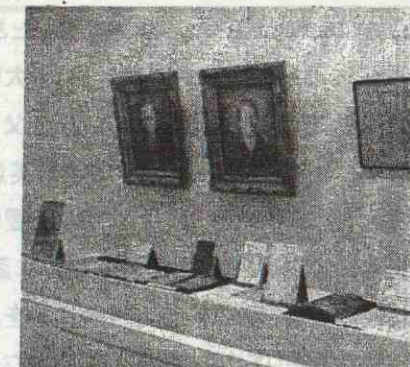


渡邊網雄氏寄贈の絵画の一部

渡邊傳之丞と渡邊網雄展

【展示目録】

1. 高邑蛭子宮由来(原本)
2. 渡邊家系図(原本)
3. 養徳寺の棟木(現物)
4. 傳之丞の愛読書(7点)
5. 巡拝朱印帳(原本)
6. 門弟人名簿(原本)
7. 御墨附(原本)
8. 渡邊傳之丞の肖像画(原本と写真・2点)
9. 渡邊網雄氏の肖像写真(2点)
10. 寶頭盧像(善光寺)
11. 渡邊網雄氏の銅像(長谷秀雄作) 網五郎・トク夫妻の肖像画
12. 渡邊網雄氏の胸像(長谷秀雄作)
13. 網雄の父・網五郎の肖像画(松尾松涛画・昭30)
14. 網雄の母・トク夫妻の肖像画(松尾松涛画・昭30)
15. 中根貞彦氏の書(1点)
16. 地券(2点)
17. 瓦の拓影と現物(2点)
18. 地券(2点)
19. 渡邊網雄氏の礼状(郷土史家・今永正樹氏宛て)
20. 金杯(渡瀬農興積善会)
21. 卒業証書(1点)
22. 賞状(5点)
23. 絵図(小倉城)の写真
24. 閻魔堂の写真(2点)
25. 田守社(傳之丞の霊を祀る)の写真
26. 享保12年建立の蛭子宮(石祠)の写真
27. 春日神社石灯籠の写真
28. 渡邊網雄氏寄贈の絵画の一部(9点)
野菜図(武者小路実篤)、アフガンの女(関巖)、熱田神宮尚武祭(東本春水)
山桜、池畔悠游、秋晴、深山反照、鯉、月(以上、中村玲方)
29. 著書(6点)
30. 渡邊網雄氏のなつかしい写真(25点) 【合計 83 点】



網五郎・トク夫妻の肖像画



御墨附